

平成 31 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

総合学科の特性を活かして地域のニーズやグローバル化する社会の要請に応える教育活動を展開し、地域や次代を支えリードする人材を育成する。

1. 多様な学びを通して能力・適性を伸ばし、自らの将来を展望し、目標達成に向かう自己実現力を育む。
2. 急速に変化する社会の中でも、広い視野を持ち、自らの社会での役割を見出し、活躍できる「自主、自律、創造」の力を育む。
3. 本校で身につけた知識や経験に自信と誇りを持ち、様々な困難に立ち向かっていくとともに、他者を理解し、協働できる寛容な心を育む。
4. 学校、地域における教育資源と社会資源を相互活用しながら交流を推進し、一層地域に信頼され愛される学校をめざす。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

(1) 「わかる授業、学力がつく授業、進路に結果をだす授業」をめざした取り組みを進める。

ア 総合学科の特性を活かした授業展開をもとに、従来の授業実践と ICT 機器を活用した授業を融合し、経験の浅い教員とベテラン教員との能力を組み合わせ、技術や知識の共有を図る。

イ 授業を通して「自己実現力、協働力、深く考える力」を育むことをめざし、授業力向上のための、公開授業や校内研究協議を活性化させる。

ウ 自立支援コース生徒の進路実現に向け、校内サポートを充実させるとともに関係諸機関と連携し就労に向けた取組みを多面的に行う。

学校教育自己診断(生徒)における「わかりやすい授業」の肯定率を、2021 年には 65%以上をめざす。(H30 60%)

H31 年度には進路未定率 2%以下を達成し、2021 年度までに 0%をめざす。(H30 2%)

2 キャリア教育、人権教育の推進

(1) キャリア教育、人権教育を系統的、積極的に推進し、将来、職業人・社会人としてよりよく自己を活かして生きていくための基盤となる能力や態度を育成する。

ア 「産業社会と人間」、「総合的な探究の時間」、LHR 等を活用して、3 年間を見通したキャリア教育、人権教育を行う。

イ 生徒の学習歴の多様化を踏まえ、小中学校でのキャリア教育、人権教育の状況を把握し、小中学校と連携した取組みを一層推進する。

ウ 挨拶、礼儀、身だしなみ等、公共の場での自ら規範意識を高める態度を日々の教育活動の中ではなくむ。

エ 時間を守り、落ち着いて学習活動に取り組めるよう、基本的生活習慣を確立させる。

H31 年度までに遅刻件数 4800 件未満をめざし、2021 年度には 18 クラス規模で 4,000 件未満をめざす。(H30 年 21 クラス規模で約 5,500 件)

3 「自主・自律・創造」力と「協調・協働」力の育成

(1) 多様な学びを通して身に付けた能力を最大限に発揮し、自律的自発的に活動し、自らの才能を開花させる環境を整える。

ア 学校行事や部活動を通して得られる連帯感と、集団活動によって味わえる成就感・達成感を体験させる。

イ 生徒同士がそれぞれの違いを理解しようと努め、意思疎通を図ることによって互いを尊重し、協働できる姿勢をはぐくむ。

ウ 国際理解教育を進めるため、海外の生徒と交流する機会を設ける。

エ 生じた事案を教育相談係や年次連絡会で集約し、本人の希望を尊重しながら情報の共有化を図り学校全体で支えていく体制を充実させる。

(2) 他校種や地域との連携を深めるとともに学校情報の積極的な発信を行う。

ア 近隣の小中学校や施設との連携を強化し、地域に一層信頼される学校をめざす。

イ 学校ホームページや校長ブログを活用し、学校情報発信を積極的に行う。

部活動加入率を、2021 年度には 45%以上をめざす。(H30 37%)

学校教育自己診断(生徒)における「悩みや相談に親身なって応じてくれる先生がいる」の肯定率を、2021 年度には 70%以上をめざす。(H30 62%)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和元年 11 月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【学習指導等】 ()内数値はH30 年度 自己診断(生徒)の結果から、「わかりやすい楽しい授業が多い」 65.1%(H30 59.6%) 「生徒の興味関心や適性・進路に応じて選べる選択科目が多い」 92.8%(91.5%) 「授業では実験・観察・実習などの時間がたくさんある」 73.3%(61.1%) 「授業で自分の考えをまとめたり、発表することがよくある」 76.7%(66.7%) 「授業で先生がプロジェクターなどを使って説明してくれることが多い」 91.8%(88.5%) 「考え方にさまざまな工夫をしている先生が多い」 73.8%(70.7%) 自己診断(教員)では「各教科において、教材の精選・工夫を行っている」 89.3%(86.7%) 「校内研修は、教育実践に役立つような内容となっている」 78.6%(66.7%) 「教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている」 67.9%(66.7%) 以上のことから、校内研修・意見情報交換を積極的に行い、生徒が主体となって考え、学ぶことができるよう教員が取り組んできた成果である。</p> <p>【キャリア教育・人権教育】 自己診断(生徒)学校は、進路についての情報をよく知らせてくれる」 84.0%(75.9%) 「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」 81.8%(77.3%) 「ホームルームなどで将来の進路や生き方について考える機会がある」 80.8%(76.7%) 「人権の大切さについて学ぶ機会が多い」 79.2%(75.5%) 自己診断(教員)「生徒一人ひとりが興味・関心、適性に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい指導を行っている」 85.7%(76.7%) 以上の結果から、進路について生徒自らが考え決定できるよう指導を行っている。人権深い理解を求めその成果が見られる。</p> <p>【「自主・自律・創造」力と「協調・協働」力の育成】 自己診断(生徒)「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる」 67.8%(62.4%) 「学校は、生徒の意見をよく聞いてくれる」 67.5%(58.6%) 「先生はいろいろな問題を見逃さずに対応してくれる」 66.4%(54.6%) 「担任以外で保健室や相談室などで気軽に相談できる先生がいる」 52.5%(46.2%) 支援が必要な生徒と協調、協働し学校生活を進めていく中で、自主力、自律力は必須である。そのためにも教員への信頼や良好な人間関係が必要である。自己診断結果からは、すべての教員に相談できるよう努力をしなければならない。</p>	<p>第 1 回【令和元年 6 月 26 日(水)】 平成 31 年度学校経営計画について。 委員全員が了解 将来構想委員会からの報告 新学習指導要領の令和 4 年度からの実施に伴い新カリキュラムへの移行を進めている。教科変更、コースについての検討、教科横断を考慮している。 令和 4 年度以降から、適応したカリキュラムでの運用を願う。 自立支援生徒と共に支援が必要な生徒入学が増えてきている。選択科目「ライフデザイン」の選択について自立支援生徒以外への対応も検討している。 支援が必要な生徒と共に学校生活を送り成長させていきたい。</p> <p>第 2 回【令和元年 10 月 23 日(水)】 授業見学 選択科目の内容に高評価をいただく。(泉州史学) 平成 31 年度学校経営計画の進捗状況について、新カリキュラムへの対応やいじめ対策、生徒状況の報告。 特にいじめ対策については、発生時の対応に迅速かつ的確にとの要望 第 1 回授業アンケートの結果説明 アンケートのマイナス項目については原因究明が必要との意見</p> <p>第 3 回【令和 2 年 1 月 22 日(水)】 平成 31 年度学校経営計画(案)及び令和 2 年度学校経営計画(案) (今後、教育庁に提出し訂正や、不確定な数値も現在のところある。)現時点ではおおむね了解。意見があれば報告する。 学校教育自己診断結果について 多くの項目にて指導の成果が見られるが、甘んじることなくすべての項目で上昇を。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	<p>(1) 「わかる授業、学力がつく授業、進路に結果をだす授業」をめざした取り組みを進める。</p> <p>ア 総合学科の特性を活かした授業展開をもとに、従来の授業実践と ICT 機器を活用した授業を融合し、経験の浅い教員とベテラン教員との能力を組み合わせ、技術や知識の共有を図る。</p> <p>イ 授業を通して「自己実現力、協働力、深く考える力」を育むことをめざし、授業力向上のための、公開授業や校内研究協議を活性化する。</p> <p>ウ 自立支援コース生徒の進路実現に向け、校内サポートを充実させるとともに関係諸機関と連携し就労に向けた取組みを多面的に行う。</p>	<p>(1) ア・授業力向上チームを中心に、授業アンケート、学校教育自己診断の結果を踏まえ、教材の精選・授業展開の工夫を行う。 ・校内授業公開週間を年に 2 回し、教科ごとの授業研究を奨励する。 ・近隣幼稚園、小・中学校、施設との交流を一層活発に行う。 ・ICT 機器を授業に一層活用できるように授業を工夫する。 イ・進学希望生徒の増加を踏まえ、自習室の開室時間を生徒の希望に応じて柔軟に対応する。 ・進路 HR、進学説明会等を通じて、多様化する入試制度を生徒にも保護者にも情報提供する。 ・自分の能力に応じた級の漢字検定、英語検定を受けるよう、奨励する。 ・職員会議を月 1 回とし、各種研修を年度当初から行事計画に入れる。ICT 機器による連絡手段を活用し、日常の連絡、情報共有、周知を図る。また、行事前における生徒の最終下校時刻を設定し、生徒も教員も負担加重のないように工夫する。 ウ・自立支援コース生徒の進路実現に向け、本人・保護者の意向を踏まえ、関係諸機関とも連携を強化する。</p>	<p>(1) ア・自己診断（生徒）の「わかりやすい授業」60%を 65%に。 ・自己診断（教職員）の「学習指導の方法等について他教科の担当者と話し合う機会がある」60%を 65%に。 ・地元の小中学校と連携し、授業見学や合同研修会を 3 回以上実施。 ・座学の出前授業を複数回実施。 ・自己診断（教員）「ICT を活用した授業が多い」87%を 90%台に ・自己診断（生徒）の「教え方に工夫をしている先生が多い」71%を 75%以上に。 イ・自習室利用生徒数を 200 人に。満足度を 80%以上に ・自己診断（保護者）「保護者の相談に適切に応じてくれる」を 80%を堅持。 ・自己診断（保護者）「教育情報について提供の努力をしている」84%を 85%以上に ・就職一次合格率、85%に復活。（H30 一次合格率 74%） ・進路未定率を 2%未満に。（H30 2%） ・漢字検定受験者数 150 名以上受験。合格率 50%（H30 132 名受験合格率 43%） ・英語検定受験者数 120 名以上受験。合格率 60%（H30 111 名受験 合格率 58%） ・自己診断（教職員）「各種会議が有効に機能している」57%を 60%以上に。 ・自己診断（教職員）「校内研修は教育実践に役立つ」67%を 70%以上に。 ウ・自立支援コース生の希望進路の実現率 100%を堅持。</p>	<p>・「わかりやすい授業」・・・65.1%（ ） ・「学習指導の方法等について他教科の担当者と話し合う機会がある」・・・60.7%（ ） ・授業見学や合同研修会や座学の出前授業を実施 ・・・2 回実施（ ） ・地元小学校から授業農業福祉の授業見学 ・「ICT を活用した授業が多い」・・・92.9%（ ） ・「教え方に工夫をしている先生が多い」・・・73.8%（ ） ・自習室利用生徒数 ・・・217 名（ ） ・「保護者の相談に適切に応じてくれる」・・・85.1%（ ） ・「教育情報について提供の努力をしている」・・・87.0%（ ） ・就職一次合格率 ・・・84.0%（ ） ・進路未定率を 2%未満 ・・・1.0%（ ） ・漢字検定受験者数 53 名 合格率 32%・・・（ ） ・英語検定受験者数 122 名 合格率 54%・・・（ ） ・「各種会議が有効に機能している」・・・64.3%（ ） ・「校内研修は教育実践に役立つ」 ・・・78.6%（ ） ・自立支援コース生の希望進路の実現率 100%・・・（ ）</p>

<p>2 キャリア教育、人権教育の推進</p>	<p>(1) キャリア教育、人権教育を系統的、積極的に推進し、将来、職業人・社会人としてよりよく自己を活かして生きていくための基盤となる能力や態度を育成する。 ア 「産業社会と人間」、「総合的な探究の時間」、LHR 等を活用して、3 年間を見通したキャリア教育、人権教育を行う。 イ 生徒の学習歴の多様化を踏まえ、小中学校でのキャリア教育、人権教育の状況を把握し、小中学校と連携した取組みを一層推進する。 ウ 挨拶、礼儀、身だしなみ等、公共の場での自ら規範意識を高める態度を日々の教育活動の中ではぐくむ。 エ 時間を守り、落ち着いて学習活動に取り組めるよう、基本的な生活習慣を確立させる。</p>	<p>(1) ア・ルーブリック評価を用い、生徒に課題達成目標を明確に示し、プレゼン講座を充実させる。 ・初任者にはHRや「産社」「総合探究」の時間に担任と一緒に入り、指導内容を把握する。 イ・小中学校と連携し、生徒・教職員の交流を積極的にすすめる。 ・課題を抱えた生徒の情報共有を迅速にする。 ・教育相談室開室の周知と利用の促進をする。 ウ・年次団会議等で生徒の情報交換を密にし、常に情報共有に努める。 ・「身だしなみキャンペーン」の時期だけでなく、常に恥ずかしくない身だしなみを心がけるよう指導する。指導内容を学校全体で統一し、一貫した粘り強い指導をめざす。 エ・生徒指導部中心に遅刻件数を減らす。 ・件数の多い生徒には生活習慣全般の見直しを保護者の協力のもとに指導する。 ・遅刻指導の工夫を生活指導部中心に、他の分掌とともに協力して取り組む。</p>	<p>(1) ア・自己診断(生徒)「自分の考えをまとめたり、発表することがよくある」67%を70%以上に。 ・自己診断(生徒)「進路についての情報をよく知らせてくれる」76%を80%に イ・自己診断(生徒)「地域の人々や近隣の学校との交流がある」50%以上に ・自己診断(生徒)「保健室や相談室などで気軽に相談できる先生がいる」46%を50%以上に ・職員人権研修年5回を堅持。内容も精選。 ・教育相談研修を1回実施。 ウ・自己診断(生徒)「先生の指導に納得できる」52%を55%に。 エ・遅刻件数を20クラス規模で4,800件未満にする。(H30年度末21クラス規模で約5,500件)</p>	<p>・「自分の考えをまとめたり、発表することがよくある」 ・・・76.7%() ・「進路についての情報をよく知らせてくれる」 ・・・84.0%() ・「地域の人々や近隣の学校との交流がある」 ・・・56.7%() ・「保健室や相談室などで気軽に相談できる先生がいる」 ・・・52.5%() ・職員人権研修5回開催() ・教育相談研修1回実施() ・「先生の指導に納得できる」 ・・・63.6%() ・遅刻件数を4800未満にする。 ・・・4,278件()</p>
<p>3 「自主・自律・創造」力と「協調・協働」力の育成</p>	<p>(1) 多様な学びを通して身に付けた能力を最大限に発揮し、自律的自発的に活動し、自らの才能を開花させる環境を整える。 ア 学校行事や部活動を通して得られる連帯感と、集団活動によって味わえる成就感・達成感を体験させる。 イ 生徒同士がそれぞれの違いを理解しようと努め、意思疎通を図ることによって互いを尊重し、協働できる姿勢をはぐくむ。 ウ 国際理解教育を進めるため、海外の生徒と交流する機会を設ける。 エ 生じた事案を教育相談係や年次連絡会で集約し、本人の希望を尊重しながら情報の共有化を図り学校全体で支えていく体制を充実させる。 (2) 他校種や地域との連携を深めるとともに学校情報の積極的な発信を行う。 ア 近隣の小中学校や施設との連携を強化し、地域に一層信頼される学校をめざす。 イ 学校ホームページや校長ブログを活用し、学校情報発信を積極的に行う。</p>	<p>(1) ア・行事を通して多くの感動を体験させ、自己肯定感を高める取組みを推進する。 イ・体育祭、文化祭等の行事に工夫を凝らし、他者を思いやり、より良い取組みをめざすクラス仲間づくりを進める。 ウ・授業において、探究活動や発表活動を積極的に行い、自主的活動を促進し、互いに発表しあうことでコミュニケーション能力を高める。 エ 海外の生徒の授業参加や生徒との交流をする行事を行う。 オ・生じた事案を教育相談係や年次連絡会で集約し、本人の希望を尊重しながら情報の共有化を図り、教員同士もお互いを支えあうような環境をつくる。 (2) ア・地域の人を招いた農産物販売や学習成果発表会、クラブ活動紹介など、学校の取り組みを外部の人に発表する機会を推進する。 ・生徒の主体的な意見を取り入れて、部活動の活性化、新入生の加入率を上げる取組みを行う。 イ・Webページで、「生徒の活動の見える化」に取り組む。 ・生徒がかかわることにより、広報活動の活性化を図る</p>	<p>(1) ア・行事満足度95%以上を堅持。(H29 90% H30 95%~98%) イ・自己診断(生徒)「行事が工夫されている」77%を80%に。 ウ・総合学科アンケート「コミュニケーション能力が身に付いた」85%を堅持。 エ・海外の生徒の学校訪問を受け入れ、生徒との交流行事を複数回行う。 オ・学校教育自己診断(生徒)における「悩みや相談に親身なって応じてくれる先生がいる」の肯定率を、65%以上をめざす。(H29 61% H30 62%) (2) ア・部活動の加入率1年次37%を40%に。 ・中高の部活動交流の実施クラブ数を堅持。(H29 7部、H30 7部) ・自己診断(生徒)「生徒は部活動に積極的に取り組んでいる」52%を60%に。 イ・「写真でみる貝塚高校」は月2回以上、校長ブログは週2回以上更新。校長以外の作成者を養成。 ・生徒が作成した広報活動の成果物。オープンスクールでの生徒の参加。</p>	<p>・行事満足度 ・・・98.5%() ・「行事が工夫されている」 ・・・80.8%() ・総合学科アンケート「コミュニケーション能力が身に付いた」 ・・・90.2%() ・生徒との交流行事 ・・・2回開催() ・「悩みや相談に親身なって応じてくれる先生がいる」 ・・・67.8%() ・部活動の1年次加入率 ・・・36.2%() ・中高の部活動交流の実施クラブ数を堅持。 ・・・7部() ・「生徒は部活動に積極的に取り組んでいる」 ・・・50.3%() ・写真でみる貝塚高校 校長ブログ () ・オープンスクールでの生徒の参加。()</p>